



あべ ひろし 弘士 絵本作家・元旭山動物園飼育員

北海道旭川市生まれ。1972年から25年間、旭山動物園の飼育係としてさまざまな動物を担当する。飼育係たちの中で話しあった「行動展示」の夢を絵として残し、旭山動物園復活の鍵となった。1996年動物園を退職し、現在は絵本制作を中心に、全国でワークショップなども行っている。著書に、「あらしのよるに」（講談社出版文化賞絵本賞受賞）、「宮沢賢治『旭川。』より」（経産児童出版文化賞美術賞受賞）、「クマと少年」（日本児童ペン賞絵本賞・北海道ゆかりの絵本大賞受賞）など多数。

うにして旭山動物園は生まれ変わったのでしょうか。

あべ お金がなくてもできる方法を考えました。われわれ飼育員はこれまでどおり動物の飼育をするだけでなく、動物の専門家として、お客さんの前で動物の話をするようにしました。そうすると動物だけではなく飼育員にもファンがつくようになり、テレビなどマスコミにもたくさん取り上げてもらえるようになりました。

当時はパンダやコアラなどの珍しい動物が人気で、珍しい動物を集めた動物園が注目される時代でした。旭山動物園は北海道にあって冬はとても寒く過酷な環境にある動物園です。流行は追わずに、地元北海道の動物たちに会える動物園を作ることになりました。北海道の大自然、大雪山や石狩川があって、その大自然に棲むヒグマやカワゲラを展示しました。

また、発想も変えて北海道の動物園らしさを見せるために、冬の間も開園したり、今では珍しくないですが、夏季は夜に動物園を開けたりしました。昼間は見ることでできない夜行性の動物たちがはしゃぎまわっている姿を見ることができたので、お客さんにはすこ

く評判が良かったですね。

オリジナリティを持って取り組む

市長 現在の旭山動物園に至るまでに多くの取り組みをしてきたのですね。創意工夫して努力を重ねたことが、起死回生の一手につながったと思います。本市の斎川地区は人口減少や少子化が進み、地区の小学校が閉校になりました。地区の方たちがこのままでは駄目だと奮起して、子どもたちを巻き込んだまちづくりをして東北で初めての本一の公民館の賞を受賞しました。

どうせできないと諦めずに、発想を変えるなどして取り組むことが重要だと思いました。市民の皆さんがまちづくりに主体的に取り組んでいただくことで、自分たちの地域やまちだという思いを持つような、まちを作っていきたいと思えます。

あべ 市民の方もまちを良くしたいという思いがあったり、アドバイスだけではなく寄付をしてくださいする方や企業もあると思います。それに応えていけるよう市としても人材を集めて、育てていく必要があると思います。



▲キッズランド2階にはあべさんが手掛けた動物たちの絵が壁一面に描かれています

私は、旭川で生まれ育ち、旭川の動物園に勤めて気が付いたことは、東京だけが中心ではないということなんです。東京でもニューヨークでも旭川でも動物園には世界中から動物がやってきます。どこの動物園でも世界中同じ仕事をしているので、地方も東京のまねではない、地域ごとのオリジナリティを持って取り組むことで新しい価値は生み出せると思います。

市長 現在、本市には多くの市政課題が山積しています。それらの課題を乗り越えて白石市が飛躍するために取り組んでいきますので、今後もお力添えのほど、よろしくお願ひします。



旭山動物園復活の立役者とのトークセッション

山田裕一 × あべ弘士

「第6次白石市総合計画」の2年目となり、本市の目指す将来像である「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現のための新たな視点でのまちづくりについて、元旭山動物園飼育員で絵本作家のあべ弘士氏と山田市長が語っていただきました。

新しい価値を生み出す

市長 昨年4月から本市では第6次総合計画をスタートさせ、本市が目指す将来像「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現に向けて、10年先を見据えたまちづくりを進めています。地元住民が気付かない白石の良さもあるようで、地域おこし協力隊や外部の人たちからは白石にはすばらしいものがたくさんあると教えていただくこともあり、なんとか新しい価値を作り出していきたいと考えています。

あべさんは、たくさん動物の絵を描かれています。真つ白な紙に作品を生み出すことは、新しい価値だと思います。絵を描くときに大切にしていることはありますか。

あべ ひとつは動物に上手だねって褒められるように描きます（笑）。人間は絵を描く唯一の動物です。絵を描きながら命と向き合いたいと思って描いています。今の動物園はたくさん動物を次々と見ることができませんが、私はひとつの動物を2時間は見てほしいと思っています。ゆっくり見るとその動物の特徴が見えてきます。

舌の長さや前後の脚の動かし方の違いや、今何をしているのかに気が付くと思います。何事も突き詰めて取り組むことで新しい発見やそこから生み出せる新しい価値があるとあります。

ピンチをチャンスに変える

市長 あべさんが絵本作家になる前に勤めていた旭山動物園は、来場者が減少して大変な時期があったと聞いています。その頃はどのような動物園でしたか。

あべ 旭山動物園は昭和42年に開園しました。当時は動物園ブームで日本中に動物園が開園した時代でした。ブームが収まると旭山動物園も施設の修理費を捻出できない苦しい時代が続きました。当時の旭山動物園は冬季期間の11月から4月のゴールデンウィーク前まで休園していました。休園期間も動物の餌代、寒い北海道では暖房費もすごくかかるうえ、職員の人件費も嵩み、赤字が続き閉園の話も出ているくらいでした。

市長 現在の旭山動物園の盛況ぶりを知っていると考えられない大変な時代でしたね。では、どのよ